

# 第1章

## 高齢化の状況

### 第1節 高齢化の状況

#### 高齢化の現状と将来像

##### ○高齢化率が24.1%に上昇

- ・我が国の総人口は平成24（2012）年10月1日現在、1億2,752万人（表1-1-1）。
- ・65歳以上の高齢者人口は過去最高の3,079万人（前年2,975万人）。
- ・65歳以上を男女別にみると、男性は1,318万人、女性は1,762万人で、性比（女性人口100人に対する男性人口）は74.8。
- ・総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は24.1%（前年23.3%）。
- ・「65～74歳人口」（前期高齢者）は1,560万人、総人口に占める割合は12.2%。
- ・「75歳以上人口」（後期高齢者）は1,519万人、総人口に占める割合は11.9%。

表1-1-1 高齢化の現状

単位：万人（人口）、%（構成比）

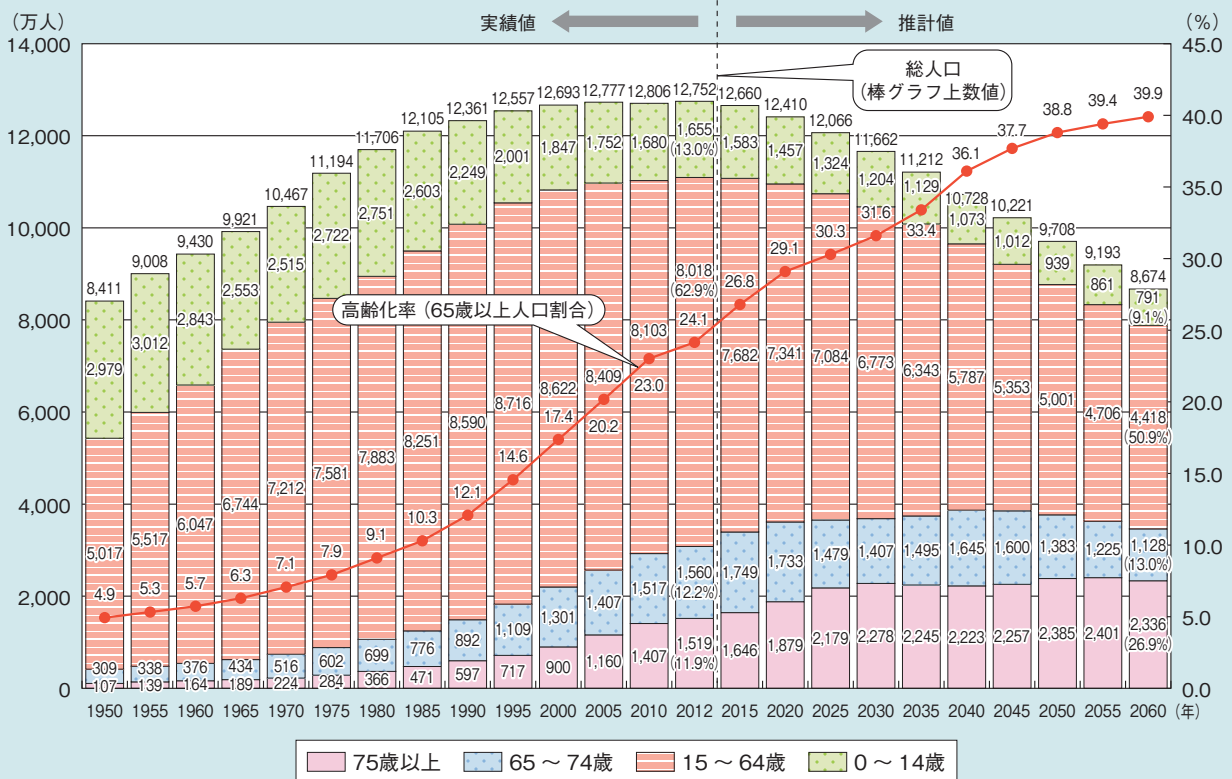
		平成24年10月1日			平成23年10月1日		
		総数	男	女	総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,752	6,203	6,549	12,780	6,218	6,562
	高齢者人口（65歳以上）	3,079	1,318	1,762	2,975	1,268	1,707
	65～74歳人口（前期高齢者）	1,560	738	823	1,504	709	795
	75歳以上人口（後期高齢者）	1,519	580	939	1,471	559	912
	生産年齢人口（15～64歳）	8,018	4,038	3,980	8,134	4,095	4,039
	年少人口（0～14歳）	1,655	847	807	1,671	855	815
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	高齢者人口（高齢化率）	24.1	21.2	26.9	23.3	20.4	26.0
	65～74歳人口	12.2	11.9	12.6	11.8	11.4	12.1
	75歳以上人口	11.9	9.4	14.3	11.5	9.0	13.9
	生産年齢人口	62.9	65.1	60.8	63.6	65.9	61.6
	年少人口	13.0	13.7	12.3	13.1	13.8	12.4

資料：総務省「人口推計」（各年10月1日現在）  
 （注）「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

○平成72（2060）年には、2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上

- ・ 総人口が減少するなかで、高齢化率は上昇（図1-1-2）。
- ・ 高齢者人口は、いわゆる「団塊の世代」（昭和22（1947）～24（1949）年に生まれた人）が65歳以上となる平成27（2015）年には3,395万人となり、その後も増加。54（2042）年に3,878万人でピークを迎え、その後は減少に転じるが高齢化率は上昇。
- ・ 平成72（2060）年には高齢化率は39.9%に達し、2.5人に1人が65歳以上。
- ・ 平成72（2060）年には75歳以上人口が総人口の26.9%となり4人に1人が75歳以上。

図1-1-2 高齢化の推移と将来推計

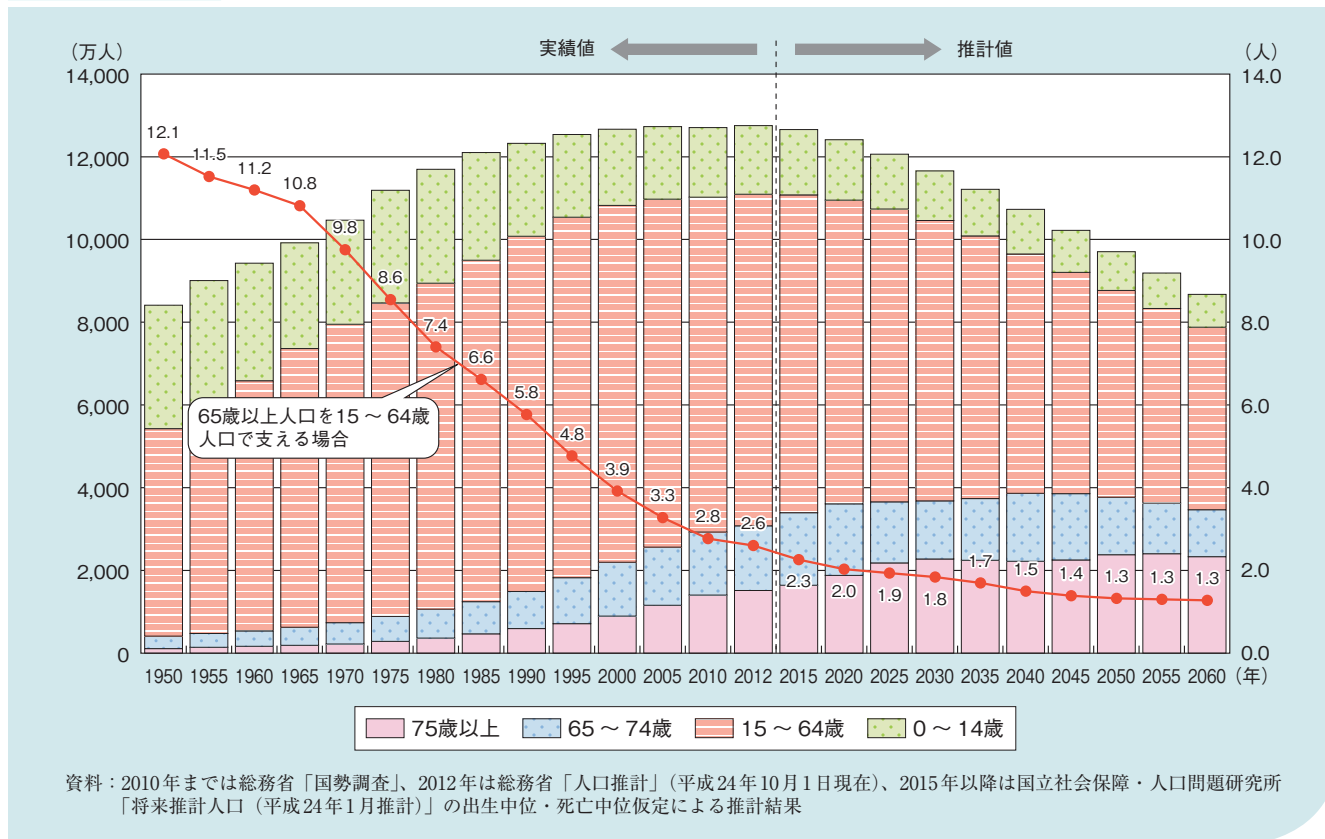


資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2012年は総務省「人口推計」（平成24年10月1日現在）、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果  
 (注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む。高齢化率の算出には分母から年齢不詳を除いている。

### ○現役世代 1.3人で1人の高齢者を支える社会の到来

- ・平成24（2012）年には、高齢者1人に対して現役世代（15～64歳）2.6人（図1-1-3）。
- ・平成72（2060）年には、高齢者1人に対して現役世代（15～64歳）1.3人。

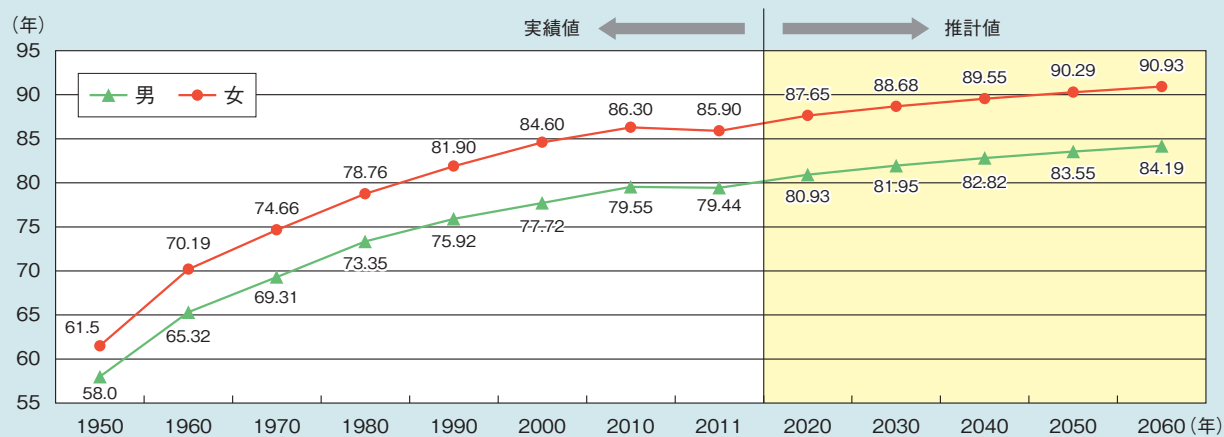
図1-1-3 高齢世代人口の比率



## ○男性84.19歳、女性90.93歳まで生きられる

- ・平均寿命は、平成23（2011）年現在、男性79.44年、女性85.90年（図1-1-4）。
- ・平成72（2060）年には、男性84.19年、女性90.93年となり、女性の平均寿命は90年を超える。

図1-1-4 平均寿命の推移と将来推計



資料：1950年及び2011年は厚生労働省「簡易生命表」、1960年から2010年までは厚生労働省「完全生命表」、2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果  
 (注) 1970年以前は沖縄県を除く値である。0歳の平均余命が「平均寿命」である。

## ○地域別にみた高齢化

- ・平成24（2012）年現在の高齢化率は、最も高い秋田県で30.7%、最も低い沖縄県で17.7%となっている（表1-1-5）。

表1-1-5 都道府県別高齢化率の推移

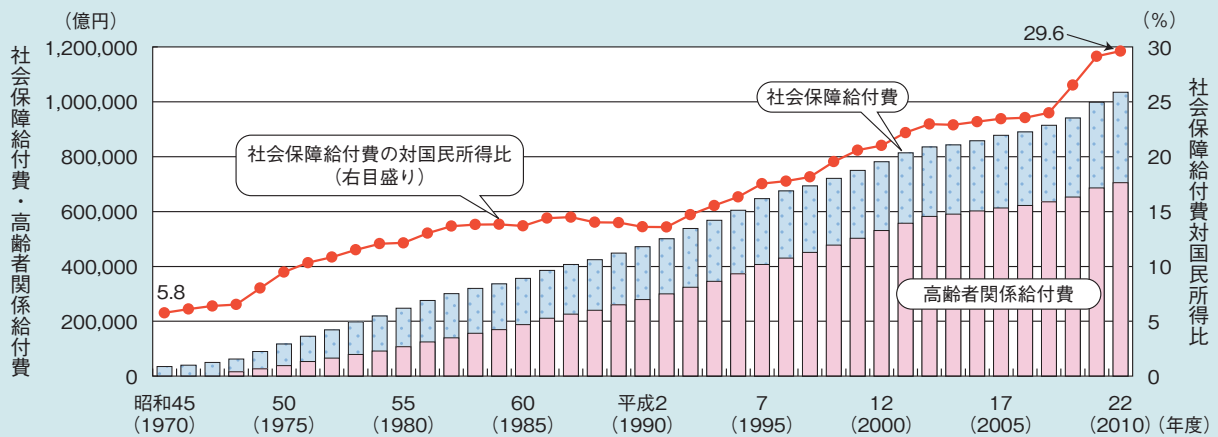
	平成24年 (2012)			平成52年 (2040)	高齢化率の伸び (ポイント)
	総人口(千人)	65歳以上人口 (千人)	高齢化率(%)	高齢化率(%)	
北海道	5,460	1,422	26.0	40.7	14.7
青森県	1,350	364	27.0	41.5	14.5
岩手県	1,303	364	27.9	39.7	11.8
宮城県	2,325	534	22.9	36.2	13.3
秋田県	1,063	326	30.7	43.8	13.1
山形県	1,152	326	28.3	39.3	11.0
福島県	1,962	511	26.1	39.3	13.2
茨城県	2,943	701	23.8	36.4	12.6
栃木県	1,992	463	23.2	36.3	13.1
群馬県	1,992	496	24.9	36.6	11.7
埼玉県	7,212	1,585	22.0	34.9	12.9
千葉県	6,195	1,437	23.2	36.5	13.3
東京都	13,230	2,812	21.3	33.5	12.2
神奈川県	9,067	1,948	21.5	35.0	13.5
新潟県	2,347	639	27.2	38.7	11.5
富山県	1,082	299	27.6	38.4	10.8
石川県	1,163	291	25.0	36.0	11.0
福井県	799	208	26.0	37.5	11.5
山梨県	852	218	25.6	38.8	13.2
長野県	2,132	585	27.4	38.4	11.0
岐阜県	2,061	520	25.2	36.2	11.0
静岡県	3,735	932	24.9	37.0	12.1
愛知県	7,427	1,591	21.4	32.4	11.0
三重県	1,840	465	25.3	36.0	10.7
滋賀県	1,415	306	21.6	32.8	11.2
京都府	2,625	649	24.7	36.4	11.7
大阪府	8,856	2,099	23.7	36.0	12.3
兵庫県	5,571	1,355	24.3	36.4	12.1
奈良県	1,390	355	25.5	38.1	12.6
和歌山県	988	281	28.4	39.9	11.5
鳥取県	582	158	27.2	38.2	11.0
島根県	707	212	30.0	39.1	9.1
岡山県	1,936	507	26.2	34.8	8.6
広島県	2,848	719	25.3	36.1	10.8
山口県	1,431	418	29.2	38.3	9.1
徳島県	776	217	28.0	40.2	12.2
香川県	989	268	27.1	37.9	10.8
愛媛県	1,415	393	27.8	38.7	10.9
高知県	752	226	30.1	40.9	10.8
福岡県	5,085	1,186	23.3	35.3	12.0
佐賀県	843	214	25.3	35.5	10.2
長崎県	1,408	380	27.0	39.3	12.3
熊本県	1,807	478	26.5	36.4	9.9
大分県	1,185	327	27.6	36.7	9.1
宮崎県	1,126	301	26.7	37.0	10.3
鹿児島県	1,690	457	27.0	37.5	10.5
沖縄県	1,409	250	17.7	30.3	12.6

資料：平成24年は総務省「人口推計」、平成52年は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計）」

○過去最高となった社会保障給付費

- ・ 社会保障給付費全体について、平成22（2010）年度は103兆4,879億円となり過去最高の水準（図1-1-6）。
- ・ 国民所得に占める割合は、昭和45（1970）年度の5.8%から29.6%に上昇。
- ・ 社会保障給付費のうち、高齢者関係給付費について、平成22（2010）年度は70兆5,160億円、社会保障給付費に占める割合は68.1%。

図1-1-6 社会保障給付費の推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「平成22年度社会保障費用統計」

(注1) 高齢者関係給付費とは、年金保険給付費、高齢者医療給付費、老人福祉サービス給付費及び高年齢雇用継続給付費を合わせたもので昭和48年度から集計

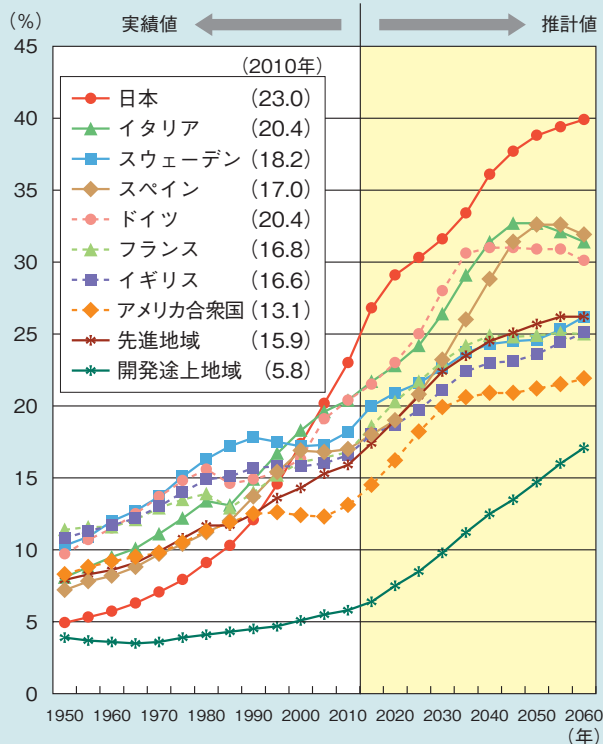
(注2) 高齢者医療給付費は、平成19年度までは旧老人保健制度からの医療給付額、平成20年度は後期高齢者医療制度からの医療給付額及び旧老人保健制度からの平成20年3月分の医療給付額等が含まれている。

○我が国は世界のどの国も経験したことの無い高齢社会を迎えている

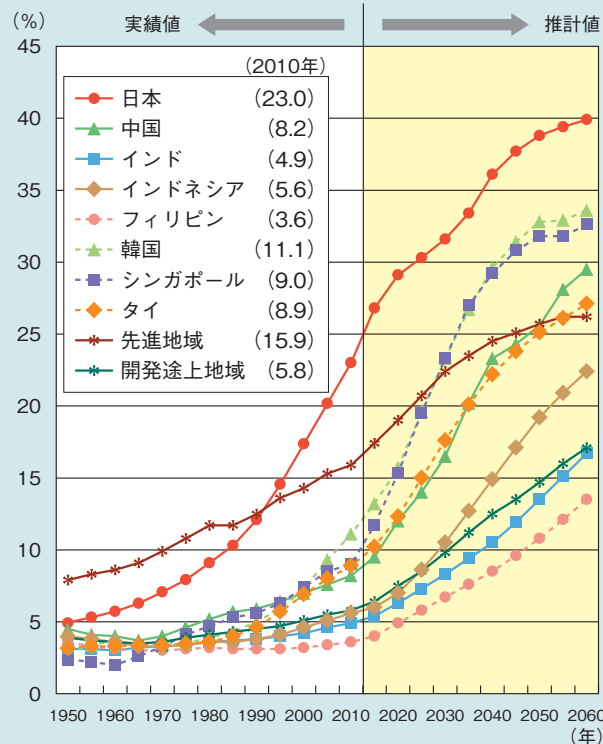
・諸外国と比較すると、我が国は、世界のどの国もこれまで経験したことの無い高齢社会を迎えている（図1-1-7）。

図1-1-7 世界の高齢化率の推移

1. 欧米



2. アジア



資料：UN, World Population Prospects : The 2010 Revision

ただし日本は、2010年までは総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。

(注) 先進地域とは、北部アメリカ、日本、ヨーロッパ、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。

開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。